



フタスジサナエ (*Trigomphus interruptus*) サナエトンボ科

体長約5cmの小さなサナエトンボで、早苗の育つ4月から5月に、ため池や水田に現れます。飛ぶ力が弱く、草に止まっている姿を見る事が多いです。

その可憐な姿は、昔から農作業を一休みする人の目を楽しませてきたのではないのでしょうか。

日本特産種で、本州南西部、四国、九州に分布します。準絶滅危惧種です。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。



コオイムシ (*Appasus japonicus*)

コオイムシ科

ため池の、水草の生えた浅く日当たりのよい場所に住んでいます。2cmくらいのカメムシの仲間で、オスが背に産卵された卵を守ります。前肢で小さな魚や貝などを捕らえて、消化液を出して溶かし、その液を吸い込みます。分布は、日本、韓国、中国。農薬の影響や水田の減少によって、激減した水生昆虫です。準絶滅危惧種に指定されています。

写真は、土師地区の別所池で撮影しました。



卵塊

モリアオガエル (*Rhacophorus arboreus*)

アオガエル科

樹上でひっそりと生活するカエルで、メスは8cm位に成長しますが、あまり姿を見ることはありません。指先には、大きい吸盤があります。周囲を樹木に囲まれた、ため池では、6月になると水面に張り出した枝に、泡で包み込んだ卵塊が幾つも産み付けられています。本州と佐渡島に分布する日本固有種で、兵庫県では絶滅危惧種に指定されています。

写真は、相坂地区のトツノ池で撮影しました。



サイコクヒメコウホネ

(*Nuphar saikokuensis*)

スイレン科

本州西部や四国、九州の浅い沼地や池に生育しています。絶滅危惧種です。香寺地区では、三カ所の池で生育を確認しています。

地下茎が白骨のようにみえることから、河骨(コウホネ)という名前がつけられました。

葉は、厚く光沢があり、基部は矢じり形にへこみます。夏になると、黄色い花を上向きにつけます。

写真は、相坂地区の奥三谷奥池で撮影しました。



ヒシ (*trapa japonica*)

ミソハギ科

全国の湖沼に生えている一年生の浮葉植物です。春に発芽し、夏から秋にかけて約1cmの白い花が咲きます。種子は、黒く、ひし形で両端に2本の鋭い刺があります。食用になるので、人の手で分布が広がられたのではないのでしょうか。

オニビシは刺が3本で、忍者が撒菱として使った記録も残っています。

写真は、土師地区の中の池で撮影しました。